

NPO法人 海浜の自然環境を守る会ニュース

第82号 2025年3月15日

〒663-8143 西宮市枝川町19-10 甲子園浜自然環境センター内 甲子園地区埋立事業対策協議会気付

<http://www.npo-koshienhama.com/>

★★ 甲子園浜の生物～昔と今～ ★★

西宮市貝類館顧問 山西良平氏 2025.2.23

一昨年冬、東山直美さんから「甲子園浜の底生動物、埋立工事以前と工事完成後の比較」と題した資料を貝類館宛にお送りいただきました。



「甲子園浜の埋立を考える会」として2002年12月にまとめられたもので、たいへん貴重な記録だと思いました。その内容と、現在の甲子園浜とも比べながら、この間の生物相と環境の変化について考えます。

当時この浜を守る会が、甲子園浜全面埋立計画に反対する活動で県の埋立と向き合ってこられた。県がこんな湾奥の汚いところ何もおらへんから全部埋め立てるんやということで計画してたわけです。けれどどちらの当時PTAの皆さんたちが、そんなことない、浜はちゃんと生きている、確かに夏場は汚いかもしれないけれど、春秋いろんな生き物が見られる、それをちゃんと調べデータをとって裁判の力にされていった。

埋立前後の比較

調査で記録された種数は、埋立前81、埋立後76、大阪湾生き物一斉調査110。

埋立前後を比較すると共通種は53、埋立前のみが28、埋立後のみが23（計104種）埋立工事や震災後の養浜の後落ち着いたとされる埋立後には“良好な干潟に生息する”種が出現している（ツメタガイ、アラムシロガイ、イソシジミ、スナゴカイ？ツバサゴカイ、アカテガニなど）。

生き物一斉調査（現在）との比較

埋立前後を合わせた104種と一斉調査による110種を比較すると、一斉調査では63種が新たに見つかりその大半は顕微鏡などを使って同定できるようになつたものであるが、近年分布するようになった外来種（ウスカラシオツガイ、ホンビノスガイ）もある。

一斉調査で記録されなかった56種には、ウメボシイソギンチャク、アメフラシ、ホンヤドカリ、トゲイトマキヒトデ、ツメタガイ、スゴカイなどがあります。

考察

埋立前後に記録された動物が一斉調査では見られなくなった理由について、水質データや航空写真、海流図などとにらめっこして考えました。水質は今の方が良くなっています。一方で沿岸の埋立が進行し、甲子園浜は埋立地に囲まれてしまいました。その結果、潮流が変化して海水は停滞し、沿岸流による砂や泥の供給も減少、干潟の環境が劣化したと考えられます。

まとめ

埋立前後の甲子園浜で記録されている湾口型あるいは良好な干潟・砂浜に生息すると考えられる底生動物が、最近の一斉調査では記録されなくなった理由について考察した。

水質

陸域から大阪湾に流入する有機物の量や、海水中のリン・窒素の濃度の年ごとの変化をみると、水質面では埋立前後の時期より現在のほうがはるかに改善されている。ウミニナなどが復活しているのはその例で、大阪湾全域での傾向である。

海水の流れ

沿岸の埋立が進行し、甲子園浜は埋立地に囲まれてしまいました。このことにより潮流の流れが変化し、明石海峡や外海からの影響が届きにくくなるとともに海水の交換も悪くなつた（湾口型の減少）。また沿岸流による砂や泥の供給も乏しくなり、また兵庫県南部地震による地盤沈下などもあって砂浜は痩せ、干潟の環境も劣化したと考えられる。

以上のように、甲子園浜の埋立を考える会による当時の記録は、大阪湾奥の地形・海流のこの間の変貌を物語る貴重な資料である。



いいもの見つけ！



「1月28日午後10時から甲子園浜でヤドカリ調査を行いたいと思います。」と貝類館の渡部学芸員からメールがありました。潮見表を見るとよく引いて観察に適しています。時々、雪が舞っていて寒いですが温かい格好をして参加しました。

甲子園浜には、ユビナガホンヤドカリがいます。1月から3月の頃、繁殖期を迎えます。ヤドカリのオスは産卵間近なメスを見つけるとその貝殻をハサミでつかんで産卵まで何日も持ち歩きながら生活するのだそうです。とても情熱的な行動で驚いてしまいます。

西宮市立甲子園浜自然環境センター前の磯では、石やブロック片にアオサやスジノリが繁茂していてその下にはヤドカリがいそうな様子です。ところが、ヤドカリがいません。

1時間調査してやっと3匹のヤドカリを見つけました。

住まいにしている巻き貝は、アラレタマキビ・

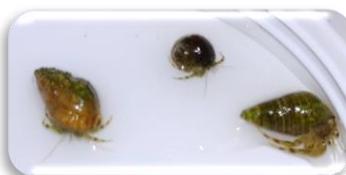
マルウズラタマキビ・ウミニナですがどれも

小さい。大きな巻き貝がありませんでした。

ヤドカリたちは、住宅難になっていました。

他にはイシマキガイ・タカノケフサイソガニ・モズミヨコエビがいましたが数量が少なかったです。

3月1日の生き物観察会時には、イソガニ・ユビナガホンヤドカリなどがいましたが、絶滅に近い生き物もいます。みんなで守っていきましょう。



活動報告

- 1月12日(日)こうしえんはまでたこをあげよう



48名参加

- 2月2日(日)冬の鳥観察会 30名参加

杉田義彦氏(日本野鳥の会ひょうご)



- 2月19日(水)~23日(日)

EWC環境パネル展 作品出品

向山裕子さん「こども環境活動支援協会賞」受賞



- 2月23日(日)「甲子園浜の生物~昔と今~」

山西良平氏(西宮貝類館顧問) 19名参加



- 3月1日(土)環境省主催

「甲子園浜 春の生きものみつけ！」参加



- 3月2日(日)地域自然史と保全研究大会2025

ポスター展示参加



活動予定

- 3月30日(日)海浜清掃

- 4月29日(火)第22回通常総会

シギチドリ観察会

- 5月25日(日)遺跡探検

- 6月8日(日)海浜清掃